

診断や治療のために、 最新機器を安全にフル活用



OB VOICE

最先端の機器を駆使し
さまざまな画像撮影を
行っています

X線単純撮影、CT、骨塩定量、ポータブルなどを扱う一般撮影部門と、MRI部門、それに核医学部門の3部門の業務に3か月ごとのローテーションで従事しています。医療系の仕事につきたいと思っていた私に、看護師の母が放射線治療の存在を教えてくれたのをきっかけに診療放射線技師という仕事に興味を持ちました。大学の授業の「関連職種連携教育」で、他の医療福祉職がどういった業務を行っているかを把握できたので現在の業務に役立っています。



笠原 大雅さん
国立精神・神経医療研究
センター病院 勤務
保健医療学部
放射線・情報科学科卒業

どんな仕事？

画像撮影と放射線治療に貢献

放射線を用いたX線装置・CT装置、磁気を用いたMRI装置、超音波を用いた超音波診断装置などを扱って、医師が病気を診断するための最適な画像を提供します。また、病気の早期発見・精密診断のみならず、がん治療のひとつである放射線治療では、最先端技術を駆使した放射線治療装置を扱って、治療に直接貢献する役割も担います。

どこで働く？

病院の放射線科や専門の医療機関など、
安全管理にも従事します

病院

医療行政機関

医療機器関連企業

画像検査センター

など

仕事の展開と将来の展望

がんの放射線治療に期待

近年の画像診断装置や放射線治療装置の技術進歩はめざましく、これらを扱う診療放射線技師には高度な専門知識と技術が要求されています。特に、がんの放射線治療においては、病巣に照準を合わせて正確な線量を照射できるかどうかが治療の成否を決めるため、この分野の専門性を高めた「放射線治療専門放射線技師」が誕生しており、治療分野での貢献がますます望まれています。

どうすればなれる？

診療放射線技師国家試験に合格することが必要です。

受験資格を得るには…

文部科学大臣指定の大学(4年)、短大(3年)、厚生労働大臣指定の専門学校(3~4年)で必要な知識・技能を学び卒業する。

高校卒業

診療放射線技師指定養成施設
大学・短大・専門学校
(4年・3年)

診療放射線技師
国家試験合格

診療放射線技師